



愛光NEWS

2019年10月

2019（令和元）年11月19日発

（編集）愛光本部総務部

（TEL）043-484-6391

（メール）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

9月の台風15号、10月の19号、そしてその爪痕が残る中10月25日には記録的な豪雨が襲い、千葉県を含む多くの地域で甚大な被害が発生しました。被災地の一日も早い復旧を祈るばかりです。愛光では特に大きな被害はありませんでしたが、さまざまな対応が求められました。自然災害とはいえ、地球温暖化の影響と聞くと“人災”と考えるべきなのでしょうか。我々の生活を根本から見直す必要が迫っているようにも思いますが・・・

さて、愛光では毎月、各施設、事業所で『月報』という形で事業の進捗状況をまとめています。今後この月報を中心に、皆さまにご報告できればと思います。

□事業経過など（2019.10.1～）

月/日（曜）	記 事
10/1（火）	法人記念式典実行委員会（第4回）／大規模災害研修
2（水）	業務執行理事会
5（土）	愛光秋まつり
8（火）	盲重複障害者福祉協議会全国大会（長崎；障害3施設）
9（水）	サービス責任者会議／2020年度新卒採用試験（第3回）
11（金）	内部統制構築委員会（第4回）／台風19号災害対策会議
12（土）	台風19号東日本上陸
14（月）	体育の日
15（火）	内部統制構築委員会（第5回）
16（水）	第7回地域食堂「ともいき」（in はちす苑）
17（木）	業務執行理事会
22（火）	天皇陛下「即位礼正殿の儀」
23（水）	2020年度新卒採用試験（第4回）
24（木）	法人記念式典実行委員会（第5回）
25（金）	房総豪雨
30（水）	施設長会議
11/3（日）	根郷福祉まつり
11/14（木）	千葉県社会福祉大会
11/15（金）	法人事業所移転25周年・はちす苑開設20周年記念行事

□これからの予定

11/19（火）	千葉県監査（佐倉事業所3施設、よもぎの園）
20（水）	千葉県監査（高齢者ケアセンターはちす苑）
30（土）	理事会
12/3（火）	～7日（土）：韓国ラファエルの家へ職員派遣研修（5名・障害者施設主任等）
12/8（日）	評議員会

■おもな出来事

□法人事業所移転 25 周年、はちす苑開設 20 周年記念行事開催

11月15日（金）はちす苑千田ホールを会場にして、記念事業を開催しました。第1部「白井宗陽ヴァイオリンコンサート」第2部「記念式典」第3部「記念講演」には約100名の方に参列していただきました。ヴァイオリンコンサートでは、情熱大陸など馴染みの曲の演奏で、地域の皆さんからも好評でした。記念式典では、佐倉市長（代理福祉部長）、佐倉市社会福祉協議会会長、佐倉市未来協会会長よりお祝いの言葉をいただき、法人の経営に多大な貢献をいただいた2名の方に感謝状を贈りました。記念講演では、「社会福祉法人の今後を考える」と題して、社会福祉法人経営者協議会武居敏副会長より、お話ししていただきました。2040年問題を踏まえ地域共生社会実現には社会福祉法人への期待がますます高まるとのことでした。法人の「ともいきプロジェクト」の更なる推進が必要と感じました。

□永年勤続表彰

11月14日（木）千葉県社会福祉大会の席上で、永年の功績によって次の3名の方が永年勤続表彰を受賞されました。片野明美業務執行理事が千葉県知事表彰、菊地暁生めいわ次長、田中淳子本部クリーンスタッフが、千葉県社会福祉協議会会長表彰されました。心よりお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍を期待いたします。

□訃報

11月11日（月）かねてより病氣療養中であった、山岸洋子愛の灯台基金会長がご逝去されました。山岸会長は、千葉県立千葉盲学校校長職を退いた後、当法人ルミエール施設長、理事、地域のさまざまな福祉活動等勢力的に活動され、8月からは法人後援会「愛の灯台基金」会長に就任されていました。山岸会長の在りし日を偲び、法人の貢献に感謝し心よりご冥福をお祈り申し上げます。

■月報から

□台風、記録的豪雨への対応

〈本部〉

台風19号への対策では、前日に各管理者が一同に集まり対策会議を開き対応を確認した。市内の小学校が避難所として開設され、地元自治会より愛光に避難したいという住民からの申し出があった場合、受け入れの協力依頼があった。はちす苑では、南部包括を通じて独居の地域住民の方を1名受け入れた。

〈本部栄養管理室〉

台風19号上陸前日の夕食時より激しい暴風雨により、夕食後の下膳は危険と判断、配膳車を施設に留めることにした。そのため、食器洗浄が不可となり翌日の朝食は、非常食のパン、施設で用意したコーヒー、お茶の提供となった。特に大きな混乱がなかったのは、不幸中の幸いであった。

<めいわ>

9月から続く台風と大雨などの被害で、千葉県がクローズアップされていることから、利用者の家族や実施機関から安否確認の電話が何件もあった、めいわは被害はなかったが、夜遅くまで聞こえる救急車のサイレンの音が気になって、眠れなかった利用者が何人かいた。

<佐倉市よもぎの園>

25日（金）の大雨では、朝から警報が発令されたため、公共交通機関の運行状況を注視した。昼過ぎから影響が出始めたため作業活動を中止し、安全面の配慮から全利用者を個別で自宅に送り届けることにした。家族から手厚い対応に感謝するとの言葉をいただいた。

<ワークショップかぶらぎ>

25日の豪雨は、事業を開始して以来、最も差し迫った状況に置かれたと感じた。雨量の増えた午後1時半頃より建物1階のトイレが排水不可能となり、2階エレベーターホールの天井から雨漏りが発生した。その上電車が運転見合わせとなり、急遽利用者をスタッフが自宅まで送り届けた。近くの高崎川の水量が上がり近隣地区では避難指示が出され、道路冠水や田畑への冠水が起きていた。今回のことを経験し、今後の災害想定には豪雨や水害を加えた対策を考慮すべきと感じた。エレベーターの雨漏りは、その後の調査の結果、雨水が排出されず屋上に水が溜ったことが原因のようである。

<学童保育所>

25日の豪雨では、保護者の迎えも通常の数倍、数時間を要した。「全く車が動かず、何時に着けるかわからない」と何回も涙声で電話をくれたお母さんもいれば、お母さん同士で連絡を取り合い、ご近所のお子さんを連れ帰ったケースもあった。根郷学童では、下校時刻が迫る頃、床下数センチのところまで水が迫り、職員2名は第二根郷学童へ避難することとなった。学校より緊急の引き渡しメールが配信される中、学童利用の児童43名は第二学童へ登所し合計80名の児童が集まったの合同保育となった。保護者同士でも土砂崩れの箇所や通行止めなどの情報を交換したり、学童職員の退勤にまで心遣いをいただいた。家庭と学童の「お互い様感覚」「距離の近さ」を感じ、ここで過ごしてきた数年の積み重ねを実感した一瞬だった。

<総合相談センター>

台風19号は、接近前より最大級といわれていたため、前日から担当利用者や気になる方に電話や訪問を行い、注意喚起を行った。民生委員より連絡があり、包括センターで関わっている独居の方をはちす苑で福祉避難所として受け入れてもらった。アシストの担当利用者2名は、はちす苑のショートステイを緊急的に利用させてもらった。このような災害時、本人の不安が大きいときに受け入れてもらえたことは非常にうれしかった。高齢者施設が障害者を受け入れるには課題もあると思うが、より多くの施設で共生型サービスが広がっていくことを期待したい。

<南部地域福祉センター>

19号では、朝の停電後B棟の避難誘導が鳴動。通電後復旧し、鳴動は停止するがA棟のセコム（建物警備）から異常音とランプが点滅する。セコムに連絡、復旧操作を確認、復旧する。B棟の入り口自動ドア天井から雨漏り、A棟作業室の雨漏りも続き、17時にセンター（A・B棟）を閉館する。

□家族と地域の絆が実った奇跡

夫と二人暮らしの79歳の認知症のある女性。はちす苑のショートステイを退所されたのが10月8日。10日に、介護認定調査があり調査員とケアマネジャーが自宅を訪問したのが10:30頃。しかし自宅に本氏の姿はなく、敷地内を探すも見当たらず、家族が最後に確認したのが、9時頃で、その後一人で外に出た様子で、付近の搜索を開始し警察にも搜索願を出した。近隣の協力を得ながら、懸命に探すも発見には至らず、11日12日と時間だけが過ぎた。台風19号が通り過ぎた13日、はちす苑の短期入所担当職員が、最悪の事態を覚悟しながら自宅を訪問。「まだ、見つかっていないんですよ」と親族の方が話し、朝から親族、近隣の方総出で搜索されていると話される。その時偶然にも、「見つかった」との電話連絡。なんと発見場所は、自宅から100～150mしか離れていない林の中だった。急いで向かうと、台風によって倒れた木々に囲まれた栗林の中で倒れている本氏が目に入る。意識もあり問いかけにもはっきりと答えてくれたので一安心。大きな怪我もなく、病院で受けた診断は脱水症状と低体温症状であった。

家族は、これ以上は迷惑をかけられないと、地域の搜索への協力を断ろうとしたが、「遠慮なんかしている場合じゃないだろう」「知らんふりできるわけがないと」誰一人あきらめずに搜索に協力してくれたとのこと。あきらめずに搜索を続けた家族や地域の方の強い思いと、3日間もの間、孤独や不安に耐えた本人の頑張りが「無事発見」という奇跡を生んだ。地域住民による「ともいき」の力によるものである。
(はちす苑課長 戸室輝大)

□愛光秋まつり～スマイルクラブ募金活動

台風15号、19号は千葉県をはじめ多くの地域に被害をもたらした。急きょ10月5日(土)に開催された愛光秋まつりで、小学生ボランティアチーム「スマイルクラブ」が災害義援金の募金活動を行った。開会セレモニーでは、西田三十五佐倉市長から紹介され、「未来を担う子どもたちに、ぜひ募金を」と呼びかけていただいた。これまでの募金活動では、数千円であったが、今回は16,691円ものご厚意が寄せられた。

初めて参加した1年生は、当日の暑さもあり、最後は「もうやりたくない」と言って座り込んでしまった。集めたお金を共同募金会に渡し、そこから被災者に配られるという漠然とした社会の仕組みは、低学年にはわかりにくかったようだ。活動の前に、具体的に例をあげて、ゆっくり話しておくべきだったと反省している。
(南部児童センターインストラクター 鈴木 信子)

□災害義援金を共同募金会へ届けました

愛光では、台風15号19号の災害義援金を法人内施設、事業所内に募金箱を設置し協力を仰いでいました。上記秋まつりでの義援金を合わせ、計100,000円を10月24日千葉県共同募金会に届けました。

■職員状況(10/31現在)

	人数	前月比
正職員	161	
サポート職員	40	
非常勤職員	157	+1
計	358	+1

○採用 2名(パート)

○退職 1名(パート)